

◎カラー・47分・35ミリ

◎日本語版・英語版



黒楽茶碗 俊寛

毎日映画コンクール
教育文化映画賞
日本映画ペンクラブ推薦
教育映画祭優秀作品賞

利休 没後四百年
侘びの美の造形
今ここに甦る!



文部省選定

利休の茶

茶室 待庵における利休道具取り合わせ

唐物茶壺 橋立

◎——はじめに 「利休の茶」製作委員会代表 林屋晴三

茶の湯の世界で、「形^{ナリ}さえよければすべて数寄の茶道具」といった桃山の精神は、それまでの唐物を主体とする舶来尊重の価値観を百八十度転換し和様に変えるものであった。この自由闊達な精神に溢れた桃山時代に、日本独特の生活芸術、茶の湯を完成したのは千利休であった。1991年は、利休没後400年に当たる。

映画『利休の茶』は、映像として初めて本格的な資料にもとづいて、利休の茶の世界へ主に造形の面から迫ろうとしたものである。現在残されているゆかりの茶室、露地、茶道具等を探ることから、茶の湯を総合的に構成していった利休の美意識と極めて高い精神性を見ていく。日本人の生活に深く広い影響を与えてきた利休の侘びの茶の湯は、現代にあってもすばらしい深さを持って見る者に迫るものがある。日本文化の真髄といえる茶の湯についての理解を深める一助として、この映画を是非ご覧頂きたい。

◎撮影協力

堀内宗完
木津宗詮
金澤宗也
藪内家
永青文庫
MOA美術館
五島美術館
慈照寺
静嘉堂文庫
大徳寺
東京国立博物館
徳川黎明会
南宗寺
根津美術館
野村文華財団
畠山記念館
藤田美術館
三井文庫
湯木美術館 他

◎監修—表千家 千宗左

裏千家 千宗室

武者小路千家 千宗守

◎製作—桜映画社

◎協力—国際交流基金

◎企画—「利休の茶」製作委員会

代表…東京国立博物館次長

林屋晴三

京都工芸繊維大学教授

中村昌生

国際日本文化センター教授

村井康彦

表千家

久田宗也

裏千家

筒井紘一

武者小路千家

木津宗隆

桜映画社

村山英治

◎あらすじ

千利休は、大永2年(1522年)堺の海産物を商う納屋衆の家に生まれた。

鎌倉時代、茶は栄西禅師によって禅とともに中国からもたらされた。室町時代の足利義満、義政の時代になると曜変天目茶碗や青磁茶碗のような唐物や唐絵の完璧な美が珍重され、格式を重んじる書院の茶が生まれてきた。

こうした時代に登場した村田珠光は、それまで省みられなかった冷え枯れた美を取り上げ下京に四畳半茶室を営んで、侘び茶の祖と仰がれた。珠光の侘び茶をさらに一步深めたのは堺の町衆、武野紹鷗であった。

利休はこの紹鷗の門を叩いた。はじめ織田信長に、つづいて豊臣秀吉に茶頭として召しかえられた利休は、四畳半茶室から三畳、さらに二畳の草庵茶室「待庵」を作った。その翌年、秀吉は大坂城を完成したが、その絢爛豪華さは、利休の侘びの草庵茶室と対極をなすものだった。黄金の茶室や北野大茶湯は秀吉の権力を象徴するもので、秀吉が企画し利休が演出したと考えられるが、利休自身は晩年、侘びの茶の湯への道を深めていく。

利休の時代の茶の湯の作法や振舞いがどんなものだったか、現在再現は不可能だが、利休が所持していた茶道具(茶碗、茶入、水指、花入、軸物等)からその侘びの美意識を窺うことができる。小間の草庵茶室を作り、茶室に至る露地を構成した利休は、日本独自の美を現す茶道具を次々に見出し、あるいは創造して、侘びの茶の湯を完成させていった。利休の死後、利休が生涯をかけて完成した侘びの茶のこころと私たちは、茶の湯の理想として受け継がれ、今も生きている。

◎定価—16ミリ/300,000円
VTR(VHS,β)
/25,000円★消費税別

◎製作スタッフ

製作=村山英治+福岡順子
脚本=村山英治+村山正実
演出=村山正実
撮影=西山東男
照明=藤来義門

編集=沼崎梅子
録音=甲藤 勇
音楽=間宮芳生
語り=中村吉右衛門
題字=小松茂美



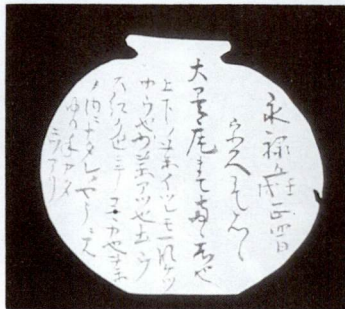
古三島茶碗
二徳三島

◎収録品目 ★——国宝10点 ☆——重要文化財17点 他81点

[茶室]★待庵 残月亭 不審庵 ☆又隠 黄金の茶室 官休庵 ☆燕庵 [絵画・墨蹟]★夏景山水図 ★漁村夕照図 ★園悟克勤墨蹟 ★密庵咸傑墨蹟 [茶碗]★曜変天目茶碗 ☆青磁茶碗馬蝗絆 珠光天目 ☆瀬戸白天目茶碗 大井戸茶碗蓬萊 利休ととや茶碗 古三島茶碗二徳三島 赤楽茶碗一文字 黒楽茶碗俊寛 割高台茶碗 黒織部茶碗冬枯 [茶杓]茶杓ゆがみ 茶杓泪 [茶壺]唐物茶壺橋立 [茶入]紹鷗茄子茶入みおつくし 利休尻鴈茶入 黒素再来 [水指]信楽壺形水指 古備前水指青海 南蛮芋頭水指 ☆古伊賀水指破れ袋 [台子]唐物台子飾り 真台子 唐物皆具利休所持 [茶釜]阿弥陀堂釜 尻張釜 [花入]竹一重切花入園城寺 嵯峨野 [建築]★金閣 ☆銀閣 ★東求堂同仁齋 ★本願寺対面所鴻の間 ★北野天満宮 ☆金毛閣 他 [史料]☆暮婦絵 ☆祭礼草紙 ☆掃墨物語絵巻 ☆洛中洛外図屏風 ☆調馬図屏風 小河御所・東山御所 天王寺屋会記 利休茶入切型 今井宗久茶湯日記 山上宗二記 北野大茶湯図 利休消息・松井佐渡宛 他



茶室一夜咄しの茶



利休茶入切型



茶室 又隠

◎千利休略年譜

- 大永2(1522)—千利休(宗易)堺に生まれる
天文9(1540)—利休、北向道陳を介して紹鷗に入門する …(利休19歳)
13(1544)—「松屋会記」に利休の名初見 ……(23歳)
17(1548)—「天王寺屋会記」に北まる
24(1555)—武野紹鷗没
永禄11(1568)—織田信長、堺に矢銭2万貫を課す。
今井宗久抗戦せんとする堺衆を説いて信長と和を講ず
天正3(1575)—利休、信長の茶頭になる ……(54歳)
10(1582)—本能寺の変、信長没
この頃豊臣秀吉、利休に「待庵」を造らせる ……(61歳)
11(1583)—利休、秀吉の茶頭となる ……(62歳)
13(1585)—秀吉、関白となり、禁中小御所にて茶会を催す
千宗易、利休居士号を勅賜 ……(64歳)
14(1586)—秀吉、禁中に黄金茶室を持ち込み、茶会を催す (65歳)
15(1587)—聚楽第を完成。秀吉、大坂城よりこれに移る
秀吉、北野大茶湯を催す。茶頭、利休他 ……(66歳)
17(1589)—利休、大徳寺山門上層を造営する ……(68歳)
19(1591)—大徳寺山門楼上の利休木像、問題となる
2月、秀吉の怒りにふれて賜死、利休自刃 ……(70歳)

◎製作—

株式会社 桜映画社

〒151 東京都渋谷区代々木1-57-1 代々木センタービル6階
TEL 03(3320)6311 FAX 03(3320)7666